



会報 防災だより

2010
VOL.5
 9月30日発行

CONTENTS

1. ご挨拶	会長 大黒裕明	2P
2. ご挨拶	消防長 嶋津明	2. 3P
3. 平成22年度定時総会		4P
4. 第2回防災意見発表会		5P
5. 青森県防火の集い八戸大会		6P
6. 上半期火災概況		7P
7. 防火管理に関する講習会開催		7P
8. 趣味をもと	副会長 佐藤丘	8P
9. 会員事業所紹介コーナー	八戸市勤労青少年ホーム	8P

題字揮毫 大黒会長

ご挨拶

八戸地域防災協会

会長 大黒 裕 明



防災日より第5号をお届けします。日頃は職場や地域の防災にご理解とご協力をいただき感謝申し上げます。

さて、先日当会会員企業さんの防災訓練を見学させていただく機会を得、喜んで参加させていただきました。そこは敷地が広く所々に防火用水の取り出し口も設置され、しかも毎年協力事業者も含め全体で訓練を実施していらっしゃるそうです。「ここは海岸のすぐそばですから、津波の心配がありますよね」ちょっと意地悪な質問をしても、「その通りで、波の大きさに従った被害予測もできています」所長さんの説明には激みがありません。内容もかなりいろいろな想定があり、初期の連絡や情報収集活動、救急処置、救助、可燃物や危険物が漏れた時の対応や消火訓練、津波の避難まで盛り沢山です。「いつ何が起るかわかりませんからね、できるときにおこなわないと」当然のようなお顔でおかないと、先日元消防庁次長の東尾氏がお出でになった時、「すべての災難に対して備えるのは物理的にも費用的にも無理です。でも一度でも訓練をしておくのと一度も経験がないのとは計り

知れない違いがあります」とおっしゃっていたのを思い出して表現の違いこそあれ同じ意識でおられることに感動し、このような事業所であれば従業員の方々は本当に幸せだと羨ましくなりました。

この間、チリ地震に伴う津波警報が日本中に出されましたが、その時の各地の様子を聞いてみると不思議に緊迫感がどの地域にもなかったようで、特に避難命令も出さなかったどころかマラソン大会を開催して祭り気分が盛り上がっていた都市もあるというから驚きます。当地域でも海岸まで見物に出かけた人がいらつしやるようで、大きな被害が出なかつたから良いようなものの背筋が寒くなるような話です。

人間は嫌なことや不都合なことは忘れたがる癖があるようです。だから生きていけるんだという方もいらつしやいますが、記憶は無くしても将来いつ起こるか分からない災難に対する準備は、この事業所のように怠らないでいたいのです。



ご挨拶

消防長 嶋津 明

会員の皆様方におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。また、我々消防行政に対しまして常日頃ご理解とご協力を賜り感謝を申し上げます。

さて、私こと、平成22年4月1日付けをもちまして消防長を拝命いたしました。非才の身と職責の重大さを思い、身の縮む思いであります。課せられた任務は、瞬時の停滞も許されないものと、決意を新たにしているところであります。

就任からこれまで6ヶ月が経過しましたが、当広域管内では大規模な災害も無く安堵しているところであり、これからも我々消防の永遠のテーマである『住民生活の安全確保』のため、職員一同その使命達成に全力を尽くして参る所存であります。何卒、前橋本消防長同様、皆様方のご支援、ご協力を宜しくお願い申し上げます。

貴協会は『防災』という崇高な目的を携え、それぞれ永年活動さ

れてきた消防設備協会、自衛消防連絡協議会、そして防火管理者協会の三つの川が平成20年4月に合流し、『八戸地域防災協会』というとうとうと水をたたえる大河に再生し、早2年と6ヶ月がたちました。創立当初から、この八戸の地域にたゆむことなく『肥沃な防災の土壌』を生み出し、地域住民に防災という恵みをもたらしてまいりました。今後とも、組織を挙げた様々な防火、防災活動に取り組み、地域の安全・安心のため活躍されることをご期待申し上げますとともに、貴協会の活動と、日頃の会員の皆様方の努力に深甚なる敬意を表するものであります。

また、『八戸・地域防災協会』は、全国に数ある防災団体の中でも、大黒会長を筆頭に、事業所の防火管理に留まらず、地域の防災のために取り組んでおられることは、胸を張って誇れる防災団体であることは間違いありません。これからも今まで以上にお手伝いを

させて頂きますので、肥沃な防災の土壌で育んだ種を県内各地或いは全国に発信して頂ければと思います。

私事になりますが、予防課に昭和50年から5年間、昭和58年から1年半、平成9年からの3年間席を置き、当協会の前身となります八戸地域広域防火管理者協会、八戸消防設備協会の事務局をお手伝いさせて頂き、当時の役員・会員の皆様方には大変お世話になりました。

当時の思い出としては、平成9年の防災の日に『安全で 明るく 安心して暮らせる 街のため』をテーマに八戸市体育館で開催された「防災フェスタ」では、アリーナに高さ7×8メートルの足場を組んでの救助訓練披露、また、消防団員によるポンプ操法訓練披露などを苦勞して計画したことが、今でも鮮明にそして強烈に脳裏に残っております。

また、平成11年に合同研修会で新築の下北消防本部を見学したとき、バスの中で何かをと思い、防火・防災に関するクイズラリーを行い、充実した楽しい移動時間となった思い出があります。

そして、親睦会では仕事を越え、美味しい杯を交わしながら、時間

を忘れ趣味などいろいろな話をしたことも懐かしく思い出されます。沢山の人たちの温かいご支援のもと、楽しく職務を全うさせて頂き感謝を申し上げるとともに、深くお礼申しあげます。

昨年度は、災害が少ない年でありましたが、3月には1960年以来50年ぶりとなるチリ地震（M8.6）が発生し、太平洋沿岸に大津波警報が発令され、八戸市おいらせ町、階上町沿岸地区へ「避難指示」が出され、当消防本部では、全職員を挙げて警戒にあたり、津波に対する緊迫した状況が続きました。

八戸市民約3,000人に避難指示が出されたのに対し、実際に避難所を利用したのは550人で、避難率2.3%と、住民の津波に対する防災意識の低さを痛感させられました。幸いにして津波の襲来は免れ被害はありませんでしたが、私は50年前のチリ地震津波で家の玄関まで波が押寄せた経験があることから、もしやと思うと「ぞつ」としました。

東海地震、東南海・南海地震や首都直下型地震の発生が切迫している状況を踏まえ、平成21年6月1日から、新たに一定の大規模・高層の建築物について、自衛消防

組織の設置と防災管理者の選任が義務付けられ、貴協会の中にも数事業所が該当となっております。防火管理者のみならず防災管理者への責務も課せられるなど、更に厳しい内容となっております。

また、皆さんも既にご存じのとおり平成20年6月2日から、新築・既存住宅問わず住宅用火災警報器が義務設置となり、当消防本部ではその設置率の向上を図るため、昨年からは職員による寸劇団「防災戦士ダッシュ119」の出演、また、職員が作詞、作曲した「家庭あんしん音頭」を婦人消防クラブ員の方々にお願いし、各事業所や各種イベント等で披露し、普及啓発と設置促進に全力を挙げて取り組んでおります。

今後も全戸に住宅用火災警報器が設置されるまで、設置促進運動を展開して参りますので、ご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

最近、消防を取巻く規制緩和が叫ばれ、性能規定など技術上の基準を緩和している一方で、44名の犠牲者を出した平成13年9月の新宿歌舞伎町の小規模雑居ビル火災を契機に平成14年に消防法の大規模な改正がありました。

更に、平成18年1月の長崎県大

村市、平成21年3月の群馬県渋川市、そして今年4月の札幌市「屯田」の認知症高齢者グループホームでの火災により、多くのお年寄りの方が犠牲となったことは、皆様方もテレビ・新聞報道でご存知のことと思います。

これらの度重なる火災を契機に、今まで小規模であったために消防法による規制が及ばなかった認知症高齢者グループホーム、個室カラオケ店などに対して、防火管理者の選任、スプリンクラー設備、自動火災報知設備、火災通報装置などソフト、ハードの両面に亘って規制が強化されたところで、仮に、防火管理者や所有者が占有者などの管理権原者が、防火管理業務を適正に行わない場合には、刑事・民事の事件に発展しその責任を問われ、営業そのものが出来ないことにもなりかねません。そのような事態を招かないためにも、日常の防火管理業務や避難訓練の繰り返しにより、適切な防火管理体制を確立し、防火・防災に強い事業所にして頂きたいと思っております。

また、災害による被害の軽減は住民自らの防災意識に懸かっていると申すも過言ではないと思っております。この防災意識の促進

のために、貴協会の果たす役割は大きいものがあると思えます。

今後とも共に手を携えて『防災の輪』を広めて参りたいと考えておりますので、ご支援ご協力下さいますようお願い申し上げます。

結びに、貴協会の益々のご発展と会員各位の一層のご健勝ご多幸、そして各事業所の益々のご隆盛をご祈念申し上げ挨拶とさせて頂きます。

予防課紹介

4月1日の定期異動により、消防本部予防課が次のとおりとなりました。

田中 正二（課長）

◎田端 民夫（課長補佐）

上野 統久（副参事兼保安調査班長）

山内 秀夫（副参事兼設備指導班長）

田名部 尚（保安調査班主査）

◎工藤 智也（設備指導班主査）

大嶋 洋一（設備指導班）

賣井坂常幸（保安調査班）

木村 大樹（設備指導班）

◎齊藤 智美（協会職員）

※◎は、防災協会の事務局を担当しています。

今後ともご指導、ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

第2回 防災意見 発表会

5月18日の定時総会に先立ち、「第2回防災意見発表会」が八戸パークホテルで開催されました。協会員1名のほか、消防団員1名、消防職員2名の方から、防災士研修講座での体験や、チリ地震津波警報発令に伴う要援護者避難活動等の意見発表があり、その内容と表現力の素晴らしさに会場から大きな拍手が送られました。

消防本部の嶋津消防長から「4名の皆さんが研修・災害・住宅用火災警報器の普及に関する貴重な発表をされました。今後も地域住民から評価される「前に出る消防」「顔の見える消防」を目標には是非協力願います。」との講評があり、発表者として出席した多くの会員にとりまして大変価値のある意見発表会となりました。

この防災意見発表会は、地域における防火防災意識の向上と関係団体の融和協調を目的に当協会の前身である八戸地域広域防火管理者協会から「住民の防火意見発表会」として続けられてきたもので、通算では26回目となります。



岩館 光藏さん

「防災士研修講座 を受講して」

防災士の資格を取るための研修内容、今後の意気込みについて発表されました。

気象予報士・建設工学教授・元消防庁等8人のスペシャリスト講師陣による阪神淡路大震災の惨事や教訓、新潟県中越地震の検証について、防災への対応方策の基本「減災対策」「地域力の防災力」の向上について、「近隣住民同士の協力・助け合い」について力強い発表でした。



大坂 栄さん

「あの日の一日 チリ地震津波の 活動と感動」

平成22年2月28日津波警報が発令されたことから始まり、要援護者の避難支援活動、避難支援活動中、路上で倒れている傷病者を発見し、心肺蘇生を試み、心拍が再開したこと。津波警報が出されたにも関わらず、川傍を散歩する人が居たりと切迫感が薄いと感じたこと。災害時に身を守るため、自助、共助、公助が必要で、危機管理の基本として最悪を想定しての対応が絶対不可欠だと、貴重な教訓を交えたお話でした。



細越 健司さん

「住宅防災 三種の神器」

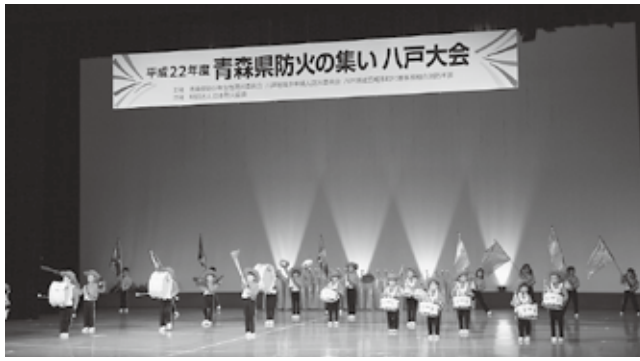
消防職員になったことを機に、一般住民として自主防災訓練に参加したことから始まり、訓練指導に訪れた先輩職員の解りやすい説明と住民目線で参加したことで、行政と住民との双方での理解が重要であることに気付き、消火器、住宅用火災警報器、地域コミュニティを「住宅防災の三種の神器」として広く訴える内容の丁寧な発表でした。



嶋津 悠さん

「まずは ヒーローから」

「どんな災害にも立ち向かう、防災戦士ダッシュ119」の決めゼリフから始まりました。
発表内容は、平成21年6月から八戸消防本部で警報器の設置が義務づけられました。事前に広報紙等でお知らせしたものの、設置率が伸びず、動きを静から動へ変え住警器設置促進のため防災戦士ダッシュ119が誕生しました。様々な活動しながら住民の防災意識を高める為に防災リーダー制度の導入を進め、地域の自発的な防災意識の高揚を支え、消防防災に真剣に取り組んで行きたいとの力強い発表でした。



防火の誓い 新たに！

青森県防火の集い 八戸大会



去る8月31日(火)八戸市公会堂に於いて、当防災協会、八戸地域の幼年・少年・県内婦人消防クラブ、消防団、県内消防本部の消防関係者と幼年・少年消防クラブの父兄など、総勢2000名が一堂に集い、「青森県防火の集い八戸大会」が開催されました。

当協会の大黒会長の言葉が始まり、式典の前にオープニングとして幼年消防クラブのミニボンブ車操法が行われました。消防の作業服を身にまとい、大人顔負けのキビキビした動きで、会場内から大きな歓声が沸き起こりました。

第一部の式典は、三村申吾青森県知事から「県内の各地域で防災のリーダーとして活躍されている皆さんが一堂に会し、安全、安心で快適な社会を目指し防火を誓い合うことは、県民の防火意識を

高める上で、誠に意義深いものがあります。この大会が実り多いものとなり、ご参会の皆様がそれぞれご活躍されますように。」との激励の言葉があり、続いてミューズ保育園チビッコ消防隊3名による誓いの言葉「ほくたち、わたしたちは火遊びしません」を皮切りに、福地小学校少年消防クラブ43名による誓いのことは、最後に婦人消防クラブ奥田副会長の防火の宣言が会場内に響きわたりました。

第1部と第2部の間に、当協会寄贈の住宅用火災警報器抽選会が行われ、住宅用火災警報器設置促進に貢献しました。



「防災戦士ダツシユ119」は、火災の中で救助にあたる防災戦士に会場から盛大な歓声が沸き上がりました。

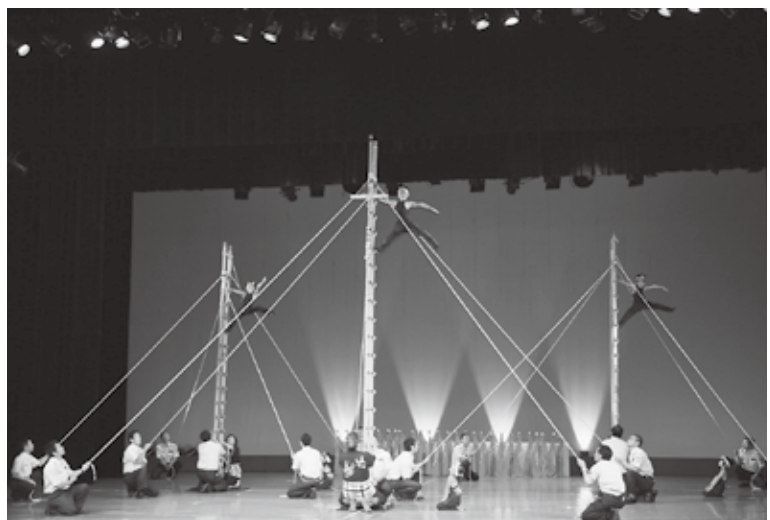
第2部のアトラクションは婦人消防クラブ員151名による「家庭あんしん音頭」で始まり、幼年消防クラブ員によるマーチング「栄光の架橋」「インザネイビー」、消防伝統の一つでありますまとい振り、はしご乗り、和太鼓演奏、フィナーレとしてアトラクションに参加

した22幼年消防クラブ員550名により、火の用心のうたを歌いながら入場し、全員の誓いのことが会場内に大きく響き渡りました。

また、会場には住宅用火災警報器PRコーナーが設けられ、来場者は再度住宅用火災警報器の設置の重要性を認識していました。

また当日11時から、14時まで八戸市庁本館前市民広場で、「チビッコ防災広場」が開催されました。

会場には、はしご車、スノーケ



ル車、地震の揺れを体験できる起震車、消火体験コーナー、綿飴、ポップコーンコーナーが設けられました。はしご車体験コーナーでは、地上30メートルの高さまで上がると、乗っていた人は恐怖で足がすくんでいる人もいました。

八戸消防本部の防災PRキャラクター「防災戦士ダツシユ119」も人気を集め、会場は大勢の人たちで賑わいました。

平成22年上半期広域圏内の火災概況

(平成22年1月1日～6月30日)

平成22年上半期中における火災の発生状況は、総出火件数が71件で、前年同期と比べ10件減少となった。火災種別は、建物火災47件(前年同期比4件減)、林野火災8件(同2件減)、車両火災4件(前年同数)、その他の火災12件(同4件減)となった。

死者は4人(前年同数)、負傷者は28人(前年同期比12人増)、り災世帯は51世帯(同6世帯増)、り災人員は137人(同7人増)となった。

焼損棟数は79棟(前年同期比12棟減)、損害額は1億1,939万6千円(同7,218万円減)となった。

△は減少

区 分	平成22年上半期 (A)	平成21年上半期 (B)	増 減 (A) - (B)
総 出 火 件 数	71	81	△ 10
火 災 種 別	建 物	51	△ 4
	林 野	10	△ 2
	車 両	4	
	船 舶		
	航 空 機		
	そ の 他	12	16
焼 損 棟 数 (棟)	79	91	△ 12
建 物 焼 損 面 積 (㎡)	3,285	5,061	△ 1,776
林 野 焼 損 面 積 (a)	153	430	△ 277
死 者 (人)	4	4	
負 傷 者 (人)	28	16	12
り 災 世 帯	51	45	6
り 災 人 員 (人)	137	130	7
損 害 額 (千円)	119,396	191,576	△ 72,180

新規事業所紹介

平成22年加入

株式会社コンチェルト コンサートホール八戸店
石川商事有限会社 フェニックスビル(嵯峨野)
株式会社 ハヤシビル
有限会社 古内 古内ビル
医療法人金田内科耳鼻科医院
医療法人康和会デイサービスセンター ちようじゃの森
マンションサンフラワー
青森三八五流通株式会社 八戸区域事業所
日本ピュアフード株式会社青森工場
(財)シルバーハビリテーション協会 シルパークリニック

2010年9月現在

総会員数 967事業所

防火管理に関する 講習会開催 資格取得講習会

平成22年度の防火管理に関する講習会は、7月7日、8日の2日間(於 グランドサンピア八戸)の日程で開催されました。

今回の講習会では、甲種防火管理講習295名、乙種防火管理講習9名の計304名の方々が新たに防火管理者の資格を取得されました。

消防法により、一定規模以上の防火対象物は、資格を有する防火



管理者を選任し、防火管理業務を行わせなければならないこととなっており、その資格を取得するための講習会を八戸地域広域市町村圏事務組合消防本部が開催し、後援として、当協会がお手伝いし毎年実施しているものです。

新たに資格を取得された方々は、これから防火管理体制の充実、強化にご尽力くださいますようお願いいたします。

趣味をもとろ

嫌われるジジイ

副会長 佐藤 丘



趣味といっても、私の場合は道楽と言ひ換えた方が良いかもしれない。

三年前から格闘技(ボクシング)を習い始めた。知り合いの主催する道場で週に二回ほどトレーニングをしている。「五十も半ばを過ぎて何故?」と良く尋ねられるが大した理由はない。「殴り殺した奴がいるから」と答えることにしている。また、実際にそういう奴がいない訳ではないが、もちろん冗談である。

この年になると体を動かして汗をかく機会が減法少なくなるから、運動不足の解消ということにして

おく。夏でも冬でも汗をたっぷりかくと気持ちが良い。

二年前からはマジックを始めた。教えてくれる人がいて、「大丈夫。誰でも出来るから」という言葉に乗せられて始めたのだが、これが面白い。マジックを覚える楽しさ、人前で演じる楽しさ、休むよりもマジックを演じることで人を騙すことが楽しくてたまらないから、罪に問われることも無く、コミュニケーションの手段として

も、もってこいである。生来の口下手だった私が、マジックのおかげで初対面の人へ特に若い子。男はどうでもいいと話すが、苦にならなくなった。

他に私の道楽とはいえば、言わずとした落語。口下手が落語をするのだから、世の中面白い。落語は一人で喋っていけばいいのだから出来るのである。ハマリ込んでもう四十年を超えた。面白がって聴きにきてくれる人達がいるから続けてられるが、死ぬまで続けられればと思う。

阪神タイガースも道楽といつていい。これは落語より長い。生まれついでへの曲がりだから、まわりが巨人、巨人と騒いでいても一人阪神を応援していた。そもそ

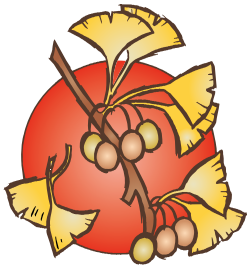
も人と同じでは面白くない。人と違うから面白いのだ。

それにしても道楽は金がかかる。格闘技の道具、マジックの道具、落語の着物や資料、阪神タイガースのグッズ・・・。貧乏サラリーマンとしては結構な痛手である。道楽は金がかかるもの、と昔から相場は決まっている。出し惜しみしてはいけない。

だが最近、金のかからない道楽を覚えた。

それは、「人の揚げ足をとること」である。これは楽しい。もともと性格が捻くれているから嫌味を言ったり、皮肉を言ったりするのが好きだったから、その延長として揚げ足をとるようになったのは、何の不思議もない。特に嫌な奴の揚げ足をとって、相手が苦虫を嘔み潰したような顔になったりすると、とても気分がいい。

これからもどんどん揚げ足をとって、嫌われるジジイになつてやろうと思っている。



会員事業所紹介コーナー③



八戸市勤労青少年ホーム

住所：八戸市沼館2丁目13-20
TEL：22-8612

八戸市勤労青少年ホームは働く皆さんが余暇を利用して、健康に楽しく過ごす憩いの場、仲間作りの場として、また豊かな教養を身につけるとともに、社会性を養い明日への勤労意欲を盛り上げるために昭和40年に開設した市の施設です。

研修室、料理実習室、体育館などを有し、今年度は、通年講座として「シェイクアップ教室」、「着付け教室」、「料理教室」、「生け花教室」、「茶道教室」、短期講座として「ヨガ教室」を開設しております。

また、サークル・クラブ活動として、バスケットボール、バレーボール、バドミントン、バウンドテニス、カボエイラ、空手、陶芸などの活動に利用されております。ちなみに施設の使用は無料です。

平成21年度は、講座では延べ1,748名、サークル・クラブ活動では延べ5,400名の方々が利用されました。

ホームを利用できる方は、原則、市に住所又は勤務している35歳未満の方です。詳しい利用の仕方等については、八戸市勤労青少年ホームまでお問い合わせください。

また、ホームの概要については、八戸市のホームページでご覧いただけます。

新しい出会い、触れ合いの場として大いに活用ください。